

名経大とつくる 地域のげんき!

【まつり特集】

地域と一緒に盛りあがろう!

- 石上げ祭
- 第23回名経祭
- 第28回楽田夏まつり
- ハツ八祭
- 田県の郷夏祭り

地域の未来を応援!

- 扶桑町職員とのワークショップ2025

地域とともに学ぼう!

●副専攻プログラム



2025 (令和7) 年10月11日・12日
名経祭



2025 (令和7) 年9月16日
扶桑町職員とのワークショップ2025

石上げ祭

～天下の奇祭・
愛知県指定無形民俗文化財～

酷暑の中、今年は学生・教職員合わせて30名が参加。献石を8点吊りのリング棒と呼ばれる運搬具に願い事を書いた手ぬぐいとともに吊るし、山頂まで運びました。



コラボ

2025(令和7)年8月3日(日)
犬山市・尾張富士
尾張富士石上げ祭伝承保存会
× 名経大

今年も無事山頂へ。
献石の様子。



江戸時代に大宮浅間神社の祭神である木花開耶姫(このはなさくやひめ)が近くの村人の夢に現れ、隣の本宮山よりも尾張富士の方が低いことを嘆き、山頂に石を積み上げたならば願いをかなえると言ったという「背比べ伝説」が伝えられています。
(犬山観光ナビホームページより)

第23回

名経祭

大学周辺では様々な「まつり」が行われ、地元の方からのお声かけにより学生がボランティアなどの活動を重ねてきました。近年の大学祭「名経祭」では地域住民の方にお越しいただき、学生と楽しそうに会話をしている姿を見かけます。今年の名経祭も盛大に開催されました。



2025(令和7)年8月30日(土)
犬山市・エナジーサポート(株)グラウンド

楽田コミュニティ推進協議会
コラボ × 名経大

これまでの取り組み



地域連携センターニュース2号

地域連携センターニュース5号



地域連携センターニュース8号

地域連携センターニュース11号

地域連携センターニュース23号

第28回

楽田夏まつり

今年は大学から2店舗が出店。名経祭実行委員メンバーはポップコーン販売のかたわら、大学祭の案内チラシを来場者へ配布し、物販サークルNextrはフランクフルトを販売。大学に隣接する地域のおまつりを盛り上げました。

恒例の「菓子まき」では、
原犬山市長、中村県会議員
が投げげるお菓子を暑さも忘れてキャッチ！



ハツハ祭

本宮山の麓にある大縣神社では、毎年8月8日に数えて8歳になる子どもの無病息災を祈念して、茅で作られた大きな輪を8の字にくぐる「ハツハ(やつはち)祭」が行われます。

地域活動団体「楽田桃色」からブース出店の協力依頼を受け、学生9名がボランティアスタッフとして参加。輪くぐりの作法も教わり、神事にも参加させていただきました。



沿道に並ぶ灯籠は地元の幼稚園園児が作りしました。
名古屋経済大学附属市都幼稚園も参加しています。

犬山市の公式キャラクター「わん丸君」も参拝に訪れ、ブースに立ち寄ってくれました。



2025(令和7)年8月8日(金)
大縣神社

楽田桃色 × 名経大
コラボ



2025(令和7)年10月11日(土)～12日(日)
名古屋経済大学

企業 × 地域のみなさま
コラボ × 名経大



はじめてボランティア活動に参加しました。小さい子が親と手をつなぎながらブースに来てくれる姿を見て、小さい時の記憶がよみがえり、家族と夏祭りにでかけたことがとても懐かしく思い出されました。同時に家族との時間を大切にしないで…とハッとしました。アルバイト先でも子どもと接する機会が多く、この経験が活かされています。これからもいろんな活動に参加したいです。

経営学部1年●白川 心結

季節柄地域とともに楽しく集う「まつり」が開催されていく。本来祭りは地の神々に感謝し、地域社会の安寧を願うものではある。一方で文化遺産的な視点から見ると、地域の人々との関わりが重要であり、そこに文化遺産としてのマツリ志向性が見えてくる。継承と参加、そこに集う人々の表情が次なるマツリを生み出すのだ。

NPO 法人古代遼波の里・文化遺産ネットワーク理事長
(名古屋経済大学犬山学術センター 客員教授) ● 赤塚次郎さん

田県の郷夏祭り

名鉄小牧線・田県神社駅の大学スクールバスのバス停隣りにある「田県の郷」は2023(令和6)年6月にオープン。通常の利用者だけでなく、老若男女が集まる夏祭りに本学学生が7名参加。受付をはじめ運営ボランティアを通じて、来場者と一緒にまつりを楽しみました。

高齢者の健康増進や教養の向上を目的とした施設。
通常は60歳以上の小牧市民が利用し、一般開放日は市民ならどなたでも利用可能。



2025(令和7)年8月5日(火)
小牧市田県の郷(たがたのさと)

第3老人福祉センター
田県の郷 × 名経大
コラボ



大好きだったおじいちゃん、おばあちゃんはずでに他界しています。祭りに参加してくれたご年配方々との交流はとても懐かしく、忙しいながらも楽しく感じ、自分は人と接することが好きだということを再認識できました。今後もこのような活動があれば積極的に参加したいです。

経営学部2年●東倉 琉成

地域の未来を応援！

第4回 扶桑町職員とのワークショップ2025

「若い世代が住みたいまちとは？」をテーマに第4回扶桑町職員とのワークショップが行われました。町職員から「扶桑町」について説明を受け、若手職員と学生が4つのグループに分かれ「移住・定住」について意見をまとめました。「大学周辺地域(尾張北部地区)は、ほどよく都会で自然豊か。田舎と都会のバランスがとれていて住みやすいと思う」など意見が発表されました。

今年は留学生も2名参加しました。

2025(令和7)年9月16日(火)
名古屋経済大学

扶桑町 × 名経大

つらぽ



扶桑町若手職員の声

●若者世代からの意見を聞くことは、普段機会が少ないと思う。貴重な機会だと感じたし、改めていただいた意見を大切にしていきたいと思った。
同じグループの学生が、扶桑町のことが好きだと言ってくれたことが嬉しかった。

●若者にとって住みたいまちは、必要な機能を備え緑のあるまちだと話していたのが意外であったため、社会貢献事業として意義のある活動と感じました。



参加学生の声(活動アンケートより)

参加後の印象がよかった…88%

- 職員さんたちみんな優しく教えてくれたから。
- 職員さんがフレンドリーに接してくれて話しやすかったから。公務員も進路に組み込んで考えていきたいです。
- 自分のまちや扶桑町について考えました。テーマが少し難しく感じましたが、たくさん交流ができて、たくさんのことを学べたので、良かったです。

参加後の印象は変わらなかった…12%

- 3年連続の参加で、変わらず楽しく学びのある活動だったから。

地域とともに学ぼう！

副専攻プログラム

～学部学びにプラス～

名古屋経済大学では、「社会課題の解決を目指す実践的なプログラム」として専門領域を越えて、幅広い学問的視野を身につけることを目的とした学部横断型の副専攻プログラム(地域創生・観光・文化遺産コース、環境共生・里山SDGsコース、グローバルコミュニケーションコース)があります。今回は「環境共生・里山SDGsコース」の紹介をします。



(株)竹藤商店の秦野社長を講師にお招きし、「竹産業の変遷と自走式粉碎機導入による地域の竹材利用の活性化」についてご講演いただきました。新たな竹の利用法のひとつ「竹チップ」は竹の整備・間伐での廃材を利用した土壌改良材としての活用が期待されています。

2025(令和7)年5月29日(木)
名古屋経済大学

(株)竹藤商店 × 名経大

つらぽ



これまでの取り組み

(株)竹藤商店との
連携協定式

2025(令和7)年5月9日(金)

(株)竹藤商店 × 名経大

株式会社竹藤商店(小牧市)の依頼を受け、地域資源創生に関する連携協定を締結しました。これまでも「地域創生プロジェクト」副専攻の授業で会社を見学したり、専任代表取締役社長を特別講師としてお招きし講義していただくなど連携が深まっています。今回は大学に隣接する竹林の調査協力もいただき、フィールドワーク活動に竹が活用されました。

大学の敷地に隣接する「竹林」へ移動し「竹チップ」づくりを体験しました。

「環境共生・里山SDGsコース」では、地域の自然や生き物の理解をベースに、本学の専門教員と地域の実務家が連携し、地域資源の持続的な活用に関する講義と実習を展開しています。

フィールドワークの例：①間伐材・竹の炭化と付属幼稚園の畑への投入試験、②(株)竹藤商店と連携しオンサイトでの竹チップ製造及び英国式石積み体験、③キャンパス周辺の水質調査、④木曾川河床や岩崎山での岩石の詳細な説明、⑤今井地区での森林資源量調査など。これら事例を活かし、近隣高校との高大連携も目指しています。

経営学部准教授 ● 郡 麻里

地域連携センターニュース28号



学校法人 市邨学園

名古屋経済大学

●お問い合わせ先

地域連携センター TEL0568-68-3282

FAX 0568-67-0724 MAIL chiiki-c@nue.ac.jp

〒484-8504 愛知県犬山市内久保61-1 TEL0568-67-0511(代表)